

蓄熱パネル

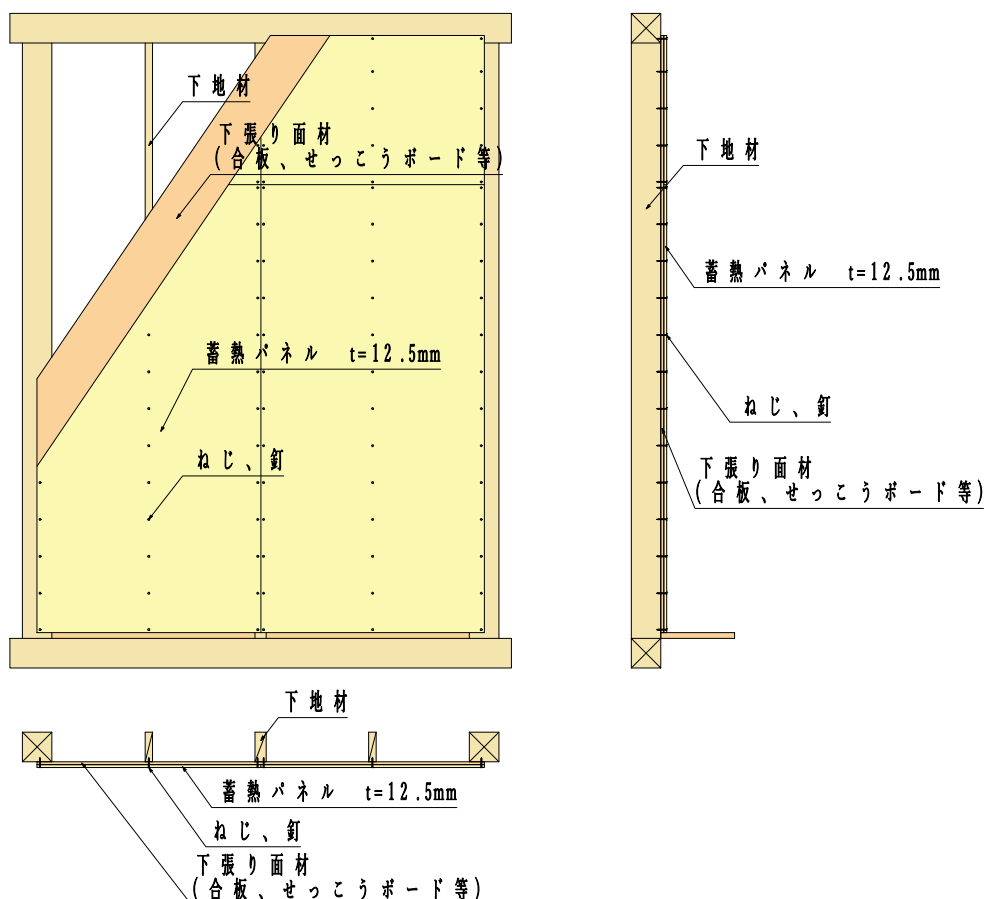
設計・施工マニュアル

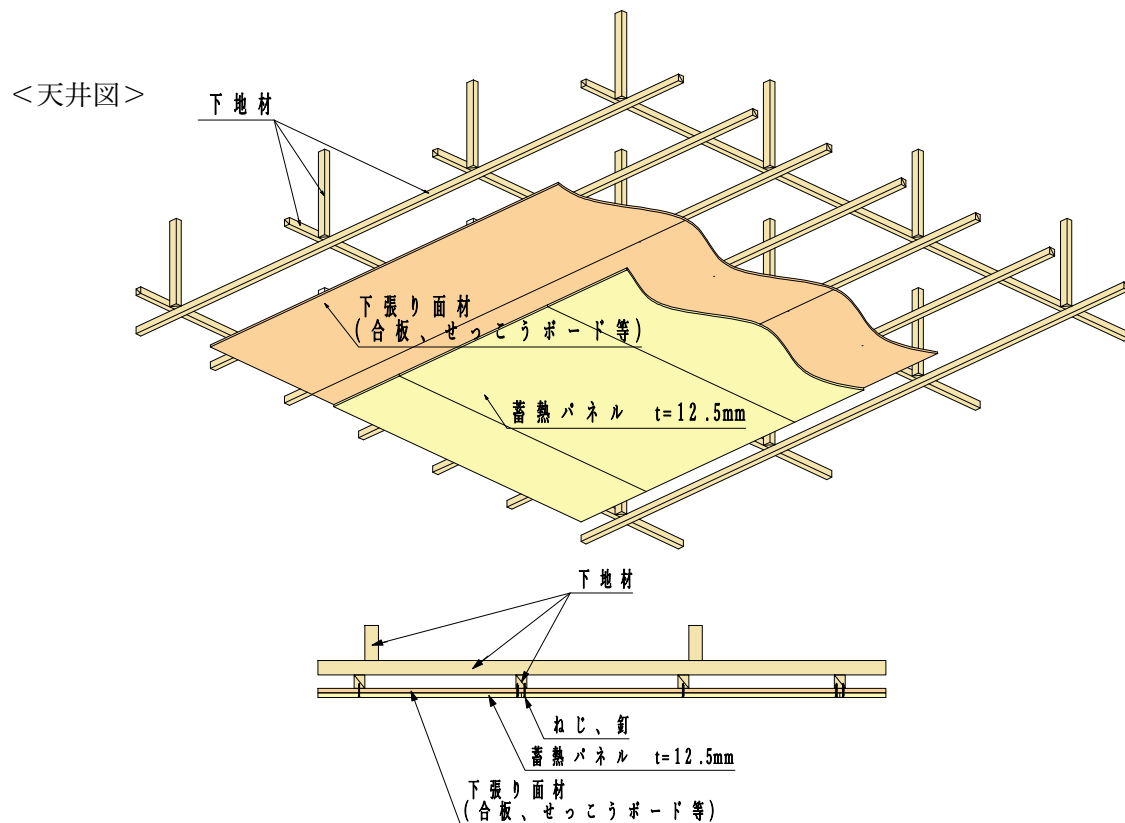
チヨダウーテ株式会社

項目	内容	備考
設計項目	蓄熱量(15～35℃) 昇温 375 kJ/m ² 降温 371 kJ/m ²	JSTM O 6101 実測値
	潜熱量(15～35℃) 昇温 99 kJ/m ² 降温 105 kJ/m ²	JSTM O 6101 実測値
	製品の厚さ	12.5mm ± 0.8mm
	利用方法	開口部からの侵入日射熱利用であること ①真南±30° の方位に面すること ②集熱開口部の面積が、対象室の床面積の10%以上であること ③蓄熱パネル施工面積が、対象室の床面積の55%以上であること
	対象室の断熱	規定された断熱基準以上であること
施工項目	製品の施工部位	壁・天井
	施工納まり図	施工納まり図（例）参照
	蓄熱機能を失う 施工注意喚起	施工方法参照

施工納まり図（例）

<壁図>





施工範囲

居室等の壁・天井

施工方法

蓄熱パネルはせっこうボード面が室内側となるように施工する。基本的な施工は一般のせっこうボードと同様とする。

尚、ボードの切断加工は丸鋸かカッターナイフを用いて行い、カッターナイフを使用する場合は裏面のシート側から切り込みを入れて切断する。

蓄熱パネルは木下地、鋼製下地等に釘、ねじを用いて次の間隔で隙間の無いように確実に留付けて下さい。

部位	下地	留付け材	留付け間隔
壁	木下地	釘、ねじ	周辺部：100～150mm程度 中間部：150～200mm程度
	鋼製下地	ねじ	周辺部：150～200mm程度 中間部：200～300mm程度
天井	木下地	釘、ねじ	周辺部：100～150mm程度 中間部：150～200mm程度
	鋼製下地	ねじ	周辺部：150～200mm程度 中間部：200～300mm程度

パネル周辺部は端部から10mm程度内側で留め付ける。

木下地に釘打ちする場合は、パネル厚の2.5～3倍程度の長さをもつ釘を用い、ねじ留めする場合は、面材（パネル厚+下張り面材）より15mm以上長いものを用いる。

鋼製下地にねじ留めする場合は、鋼製下地の裏面に10mm以上の余長が得られる長さのねじを用いる。

留付け材の頭がパネルの表面から少しへこむように確実に締め込む。このときパネルの表面紙を破損しないように注意する。

継目などの位置は正しく、いずれも不陸・目違いのないように取付ける。